

# 令和6年度 学校運営協議会だより 第2号

令和6年7月17日

## —— 令和6年度 第2回 学校運営協議会を開催しました ——

7月8日（月）に2回目となる、学校運営協議会を開催しました。今回は火災避難訓練を予定している日に設定し、児童生徒の避難の様子や児童生徒への教師の指導等を見ていただき御助言をいただきました。

### ◎ 当日の様子と内容

#### ○校長挨拶

御殿場市の文教委員が本校を見学し、取り組みや環境についてアドバイスをいただいた。北駿地区の中高校長会では、地域で子どもをどう育てるかが話題に上がっている。本校のあるこの地域は、とてもあたたかい地域と感じている。みなさんに手を差し伸べてもらいながら学校づくりを進めていきたい。

#### ○訓練を参観した感想

坂上様：中学部を見学した。生徒たちが訓練に慣れていて自分からヘルメットをかぶったり、手順の確認をしたりしていた。「慣れ」は怖い、災害が起きたときの対応を身に付けることはとても大切だと感じる。

高橋様：「自分が訓練を行ったときは99%できていた。」

ではなく、全員が安全に避難することに非常にこだわった。3.11のときを考えると、学校の子どもたちを100%安全に避難させるのはとても大変なことだと感じる。体が動かなくなったり、気持ちがパニックになったりする子どももいる。訓練を通した「慣れ」は大切。何回もトレーニングをして、授業では細かい想定をしていく中で心構えができていって、それが訓練時に現れる。学習的な意味でのトレーニングはとても大切だと思う。避難をしない訓練も、イメージを持つためには必要。先生方がそれを分かってくれて取り組んでくれているのが心強い。

細井様：生徒たちは慌てずに指示に従っていた。2階から降りるときに、半数くらいが手すりを持って移動できていた。全員が手すりを持って移動できると、2次災害がなくなるので徹底する良いと思う。実際に起きたときを想定して、日頃の訓練を重ねることが大切。大きな訓練を通して、個々の対応、対策をしていってほしい。

根上様：日頃の訓練が身に着いている。事前学習でも、防災に関心をもたせるような授業が行われていた。煙を吸わないようにハンカチを当てるのがスムーズにできていた。普段からの備えが素晴らしいと思う。

中村様：日頃の訓練の成果が出て、スムーズに避難できていた。火災等が起きたときには、パニックになる子、行動が遅い子、集団から外れる子の対策が必要だと感じた。

小林様：小学部と高等部の様子を見た。今日の訓練では先生の指示に従っていたが、実際の火災の様子によっては身体の大きな生徒が動かないこともあるだろうし、一人がパニックになると連鎖が起きることも考えられる。先生方は大変だが、課題として考えていってほしい。

鈴木様：「火事ときには窓を閉める」の対応が早くて、訓練のたまものだと感じた。自分も火災時には心掛けたい。火災が起きたことを知らせる先生方の声掛けもとても早くて、かけつける先生も素早くて頼もしく感じた。



柳井様：今回の訓練は火災ということで、声（言葉）だけで想定して行った。実際に煙等を焚いたら、生徒がどういう対応をするのかが気になった。煙は難しくても、ドライアイス等でもくもくしたものを見せたらどうなるか。仮想体験として、リアルな訓練ができて良いと思う。

ヘルメットをどういう場所に置いてあるのかが気になって見せてもらった。高等部はL字フックやU字フック、棚等に置いてあったが、U型だと自分では取れない生徒もいるのではないかと。置き方も検討した方が良いと思う。

### ○学校より防災教育についての説明

○小学部：ヘルメットをかぶる、ハンカチを口に当てる等、集団で避難するための学習をしている学年が多い。高学年では放送を聞く、集団で集まる、机の下にもぐる等、迅速に的確な行動ができるよう指導を進めている。教員には、状況判断力を求めている。児童がちらばっているとき、パニックになったとき等、様々な状況での判断力と、臨機応変な対応が必要。防災時に限らず、実際の状況に即した対応ができるような訓練を積み重ねている。

○中学部：「まなぼうさい」は避難訓練のない月に設定している授業で、知識として防災を学ぶ。「総合的な学習の時間」のテーマに、防災を選び、安全な生活について学んでいる。安全なまちづくりについて学ぶ中で、煙の体験を行った。煙は上に行くとも身を体験したことで、低い姿勢で逃げることを学ぶことができた。また、電気等がない中の生活で、発電機の体験、簡易トイレの見学、消火器の扱い等を学んだ。防災についての関心をもたせて生活とつなげることで、実感をもたう学習となるよう取り組んでいる。

○高等部：年間の避難訓練を軸に学習している。高等部では、自分事としてとらえて、命を守る教育。卒業すると訓練の機会も少なくなるため、自分の身を自分で守る力をつけさせたい。生徒に応じて被災時環境に慣れる、支援を受け入れるための学習や寝袋体験、非常食を選ぶ、賞味期限のチェックをする等、実際の場面を想定した学習をしている。卒業後に地域や家庭で生活する中で、自分で防災を意識できるようにしていきたい。

### ○委員より防災教育についての御助言

細井様：いかなる場合でも避難することは大切であるが階段を降りるときに手すりを持つなど、安全に避難するために必要なことにも取り組んでほしい。

中村様：南海トラフと富士山噴火が連動するという予測があるので、訓練に取り入れると良いかもしれない。地域の防災訓練は、周りの方に知ってもらいたい良い機会。抵抗がある人も多いと思うが、周りに発信するためにも参加してほしい。

坂上様：地震が起きた後はだいたい火災が起きている。災害が複合的になることが多い。子どもたちが自分の身をどれだけ自分で守れるかは、日頃からの訓練にかかっている。これからもよろしくをお願いします。

### ○最後に

校長：防災は一言でいえば想像力。次に何が起きるのか、このあとどうなるのかを不安に感じると思うが、今日はみなさんから実際の意見をたくさんいただいた。今後の訓練につなげていきたい。

